

公立大学法人岡山県立大学

令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果

令和2年8月

岡山県地方独立行政法人評価委員会

目 次

1	評価対象法人の概要	1
2	評価の実施根拠法	1
3	評価の対象	1
4	評価の趣旨及び評価者	2
5	評価方法の概要	2
	(1) 評価基準	2
	(2) 評価の手法	2
6	評価結果	3
	(1) 総合的な評定	3
	(2) 中期計画の各項目ごとの評定	4
	第2 大学の教育研究等の質の向上	4
	第3 業務運営の改善及び効率化等	5
	(3) 評価結果等の業務運営への活用状況	5
	(4) 公立大学法人岡山県立大学に対する勧告等	5

1 評価対象法人の概要

- (1) 法人名等 総社市窪木111番地 公立大学法人岡山県立大学 理事長 沖 陽子
- (2) 設立年月日 平成19年4月1日
- (3) 設立団体 岡山県
- (4) 資本金の額 12,091,632,943円
- (5) 中期目標の期間 令和元年度から令和6年度まで
- (6) 目的及び業務

ア 目的

公立大学法人岡山県立大学は、人間を取り囲む様々な環境の中で調和のとれた発展を期し、地域の課題や社会の要請に的確に応えるため、「人間・社会・自然の関係性を重視する実学を創造し、地域に貢献する」ことを基本理念とする。

この理念に基づいて、学術の進展と教育の振興を図り、福祉の増進、文化の向上、地域産業の発展等に寄与する研究活動に取り組むとともに、知性と感性を育み、豊かな教養と深い専門性を備えて新しい時代を切り拓く知識と高度な技術を身につけた実践力のある人材を育成する。

イ 業務

(ア)岡山県立大学を設置し、これを運営すること。

(イ)すべての学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談など学生生活に関する相談その他の援助を行うこと。

(ウ)民間企業や試験研究機関等との間の共同研究や受託研究、技術指導等を実施するなど、企業等と連携して教育研究活動の推進に取り組むこと。

(エ)地域社会に貢献するため、公開講座を開設する等、地域住民に幅広く学習機会を提供するとともに、大学における研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。

(オ)前各号に掲げる業務を効果的かつ効率的に実施するため、附帯して必要となる関連業務を行うこと。

2 評価の実施根拠法

地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第78条の2

3 評価の対象

令和元年度における公立大学法人岡山県立大学の中期計画（令和元年度から6年度まで）の進捗状況

4 評価の趣旨及び評価者

(1) 評価の趣旨

地方独立行政法人法の規定に基づき、公立大学法人岡山県立大学（以下「県立大学」という。）が、十分な向上心のもと他の大学の模範となるような業務運営が行えるよう、業務の質の向上、業務運営の効率化、透明性の確保等について自主的、継続的な見直し及び改善を促すことを目的に、岡山県地方独立行政法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）が業務の実績評価を行う。

(2) 評価委員会

委員名	氏 名	役 職 等
委員長	萩原邦章	萩原工業（株）代表取締役会長
委員	小田項一	公認会計士・税理士
委員	清水祐子	岡山県商工会議所連合会女性会副会長 （株）三松専務取締役
専門委員 （大学関係）	秋山祐治	川崎医療福祉大学副学長
専門委員 （大学関係）	桑原和美	就実大学・就実短期大学学長

（委員名順、50音順）

5 評価方法の概要

(1) 評価基準

公立大学法人岡山県立大学の業務の実績に関する評価の実施基準

(2) 評価の手法

公立大学法人岡山県立大学の自己評価の結果を活用する間接評価方式

6 評価結果

(1) 総合的な評定

評価委員会は、県立大学が公立大学法人岡山県立大学の業務の実績に関する評価の実施基準により自己評価し提出した「令和元年度に係る業務の実績に関する報告書」の評価を行い、次のとおり評定した。

県立大学は、人間を取り囲むさまざまな環境の中で調和のとれた発展を期し、地域の課題や社会の要請に的確に応えるため、「人間・社会・自然の関係性を重視する実学を創造し、地域に貢献する」ことを基本理念とし、学術の進展と教育の振興を図り、福祉の増進、文化の向上、地域産業の発展等に寄与する研究活動に取り組むとともに、知性と感性を育み、豊かな教養と深い専門性を備えて新しい時代を切り拓く知識と高度な技術を身につけた実践力のある人材を育成することとしている。

令和元年度は、第3期中期計画の初年度として、3つの基本方針（①社会を牽引する専門性、グローバルセンス及び人間力を有する、きらりと輝く地域リーダーを育成する ②来るべき高度知識基盤社会に貢献できるよう、基礎生産力のある学術研究を強化する ③社会のニーズにしなやかに適応するため、教育研究組織を見直し、スリムな大学運営システムを構築する）を教職員が共有して年度計画の推進に取り組み、確実に前進している様子が見られた。

大学として最も重要な業務の一つである人材の育成に関しては、その指標となる保健福祉学部の国家資格試験について、令和元年度では看護師及び管理栄養士の国家試験で合格率が目標に若干及ばなかったものの、助産師試験では100%となったほか、社会福祉士の国家試験において、全国平均の合格率約29%を大きく上回る82.5%を達成するなど、教員の指導の成果が現れている。

また、学生の就職支援として、前年度に設置した「キャリア・学生生活支援センター」の活動に伴い、学生への支援は充実しつつあり、学部卒業生の就職率は、97.7%と高い率を維持している。

さらに、学生毎にアドバイザー教員を決め進路や学業などの相談を受けるアドバイザー制度や、教員が学生の訪問時間帯を設けて研究室で待機し、授業等の疑問点や個人的な悩みなどの相談を受けるオフィスアワーを活用するなどの取組により、教育の質の向上が図られていると認められる。

業務運営の改善に関しては、自己収入の増加を図るため、科学研究費補助金など、外部資金獲得に努めるとともに、内部統制システムの整備・強化により、適正な業務の執行に努めていることが認められる。

最小項目別評価の結果を見ると、52項目中、4点が5項目、3点が34項目、2点が13項目、1点が0項目であり、全体の最小項目別評価の評点平均値は2.8となっている。また、大項目別評価では、「第2 大学の教育研究等の質の向上」は最小項目が33項目で平均2.9点、「第3 業務運営の改善及び効率化等」が19項目で平均2.8点となっており、2つの大項目別評価は、「順調」となっている。

以上全体として、令和元年度は、成果指標が未達成の項目はあるものの、第3期中期目標の実現に向け、初年度として新たな試みに積極的に取り組む姿勢がみられるとともに、組織として戦略的に推進するための体制作りに着手していることから、最小項目別評価や大項目別評価の結果も踏まえ、業務の実績における中期計画の進捗は順調と評定する。

少子化の影響による18歳人口の減少や東京一極集中の加速化など、大学運営を取り巻く環境は、年々厳しさを増している。さらには、新型コロナウイルス感染症の影響でさまざまな活動が制約を受け、成果が出にくい状況ではあるが、数値結果のみにとらわれず、目標実現のための取組にも創意工夫を凝らした

がら、引き続き、機動的・戦略的な大学経営に一層取り組まれることを評価委員会としては期待するものである。

(2) 中期計画の各項目ごとの評定

第2 大学の教育研究等の質の向上

ア 評定

中期計画の進捗状況は順調

イ 理由

中期計画の達成に向けて年度計画に掲げた取組の多くが着実に実施され、中期計画期間に取り組むべきことが前進していると見受けられる。

ウ 評価した項目

- ① 項目数 33項目
- ② 特筆すべき項目

【教育】

- ・保健福祉学部目標である国家試験合格率で、令和元年度では助産師の国家試験で合格率が100%となったほか、社会福祉士の国家試験において、全国平均の合格率約29%を大きく上回る82.5%を達成するなど、国家試験対策等により、期間中を通じて高い合格率を維持できた。
- ・地域創生推進士も前年度とほぼ同数を輩出し、地域に愛着を持ち、その発展に寄与する意欲・能力を育てているものの、県内就職率は45.8%と低下した。
- ・インターンシップについて、新たな受け入れ先を開拓するなど充実を図ったものの、参加者数は28名と、目標の55名に届かなかった。

【学生の確保】

- ・18歳人口の減少による大学間競争や、多様化する入学者選抜に備え、アドミッション・オフィス機能について検討したが、一般前期入試での志願者は2.6倍と目標の3.2倍以上に及ばなかった。

【学生の支援】

- ・アクティブ・ラーニングの定義、現状把握のためのアンケート調査を実施し、結果に基づいた数値目標を設定することができた。また、学習環境についても教育満足度調査の試行により検討材料を得ることができた。

【研究】

- ・外部競争的資金を獲得するため、公募情報の周知により申請を促すとともに、科学研究費補助金の申請計画書の添削や作成研修会を実施することで、採択率が30.3%と目標大きく超えた。

【地域貢献】

- ・副専攻「岡山創生学」を修了し、所定の要件を満たした27人の学生に対し「地域創生推進士」を授与する等、地域創生のための人材育成を行った。

- ・地域と大学の協働事業「コミュニティキャンパスおかやま」として、地域住民等を対象とした各種講演・講座等を開催し、SDGs（持続可能な開発目標）の理念を意識した地域連携教育に取り組んだ。

【グローバル化】

- ・グローバル人材の育成に戦略的に取り組むため、グローバル化に関する基本方針(案)を作成した。
- ・英語教育について、無線LAN利用授業の実施やe-learning教材の見直し等、教育方法の改善を進めているが、成果指標のTOEIC平均点の1年次から2年次の伸び幅が、マイナス24.85点と目標を大きく下回った。

第3 業務運営の改善及び効率化等

ア 評定

中期計画の進捗状況は順調

イ 理由

第3期中期計画に掲げる3つの基本方針を着実に実施するため、課題解決に取り組む姿勢が見受けられる。

ウ 評価した項目

- ① 項目数 19項目
- ② 特筆すべき項目

- ・3つの基本方針を実施するため、職員の研修や組織体制の見直し等、運営体制の改善・効率化に向けた取り組みを進めた。

(3) 評価結果等の業務運営への活用状況

- ・県地方独立行政法人評価委員会の評価結果を学内の部局長会議、教育研究審議会、経営審議会、役員会に報告し意見を聴くとともに、学内教職員での情報共有を図り、次年度の年度計画及び自己評価、予算、組織の見直しに活用した。

(4) 公立大学法人岡山県立大学に対する勧告等

該当なし